



(1) アペニン山隧道のシャフト坑外の景である、寫眞の左下方がシャフトの上屋で其所にエレベーター其他の設備があり、欄捨の谷に臨んでゐる。

伊太利アペニン山大隧道 延長12哩、目下工事中

伊太利首相ムツリニー氏が、一流の特色を發揮しつゝ、斷行して行く諸政策のうちで、特に我々にまつて興味が深いのは、氏が一意同國産業發達の爲め、産業道路の開發に或は鐵道の改良に努力しつゝあること云ふ事である。殊に目下施工中のアペニン山大隧道工事の如きは、最も我々の注意をひくものである。

アペニン山大隧道は延長實に12哩に渡りその中央に深さ500尺の堅坑が1ヶ所設けられてゐる。此の堅坑の下は將來隧道内の信號所となるのであるが、信號所と稱しても長大なホームやその他が設備されるので一種の地下停車場の様なものである。工事中は此處が最もよく利用されてゐる。例へば大袈裟な排水設備なきが此處へ設けられた(寫眞参照)。

實際此の堅坑のポンプ設備は特記すべき事で、地下500呎餘の坑内に30餘臺のポンプをズラリと列べて然も現在使用中のものは僅か

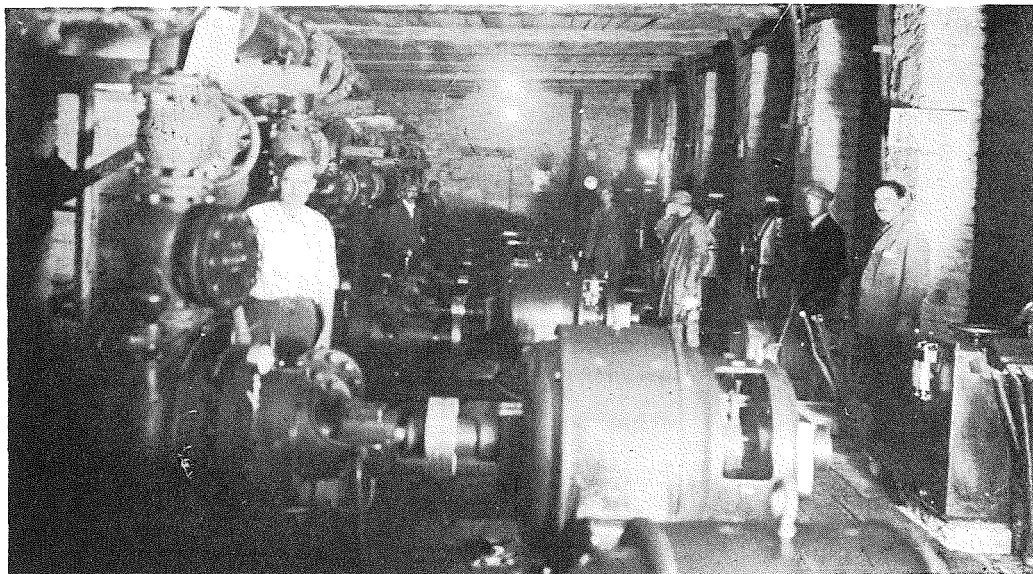
數臺に過ぎず他はすべて豫備である。

萬一を慮つて是れだけの豫備機械を備へつけて置く位だから、掘鑿進行状態も良好で、最初の計畫通りに進行しつゝある。

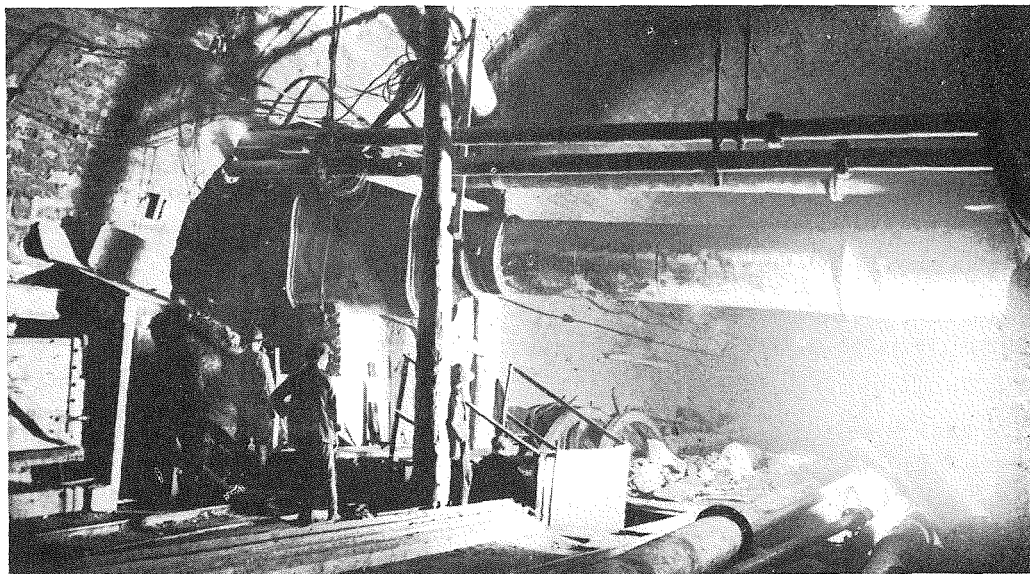
此の延長12哩の大アペニン山隧道は伊國鐵道省の設計になる廣軌の複線隧道であるが、工事は政府のレーバ・オブ・パブリックにて施工され、一種の失業救済事業とも見られるのである。

導坑は7呎×8呎位で、一導坑1ヶ月の進行は、昨年の状態では80米位である。別掲の圖表のカーブの様子では近く貫通するものと思はれる。

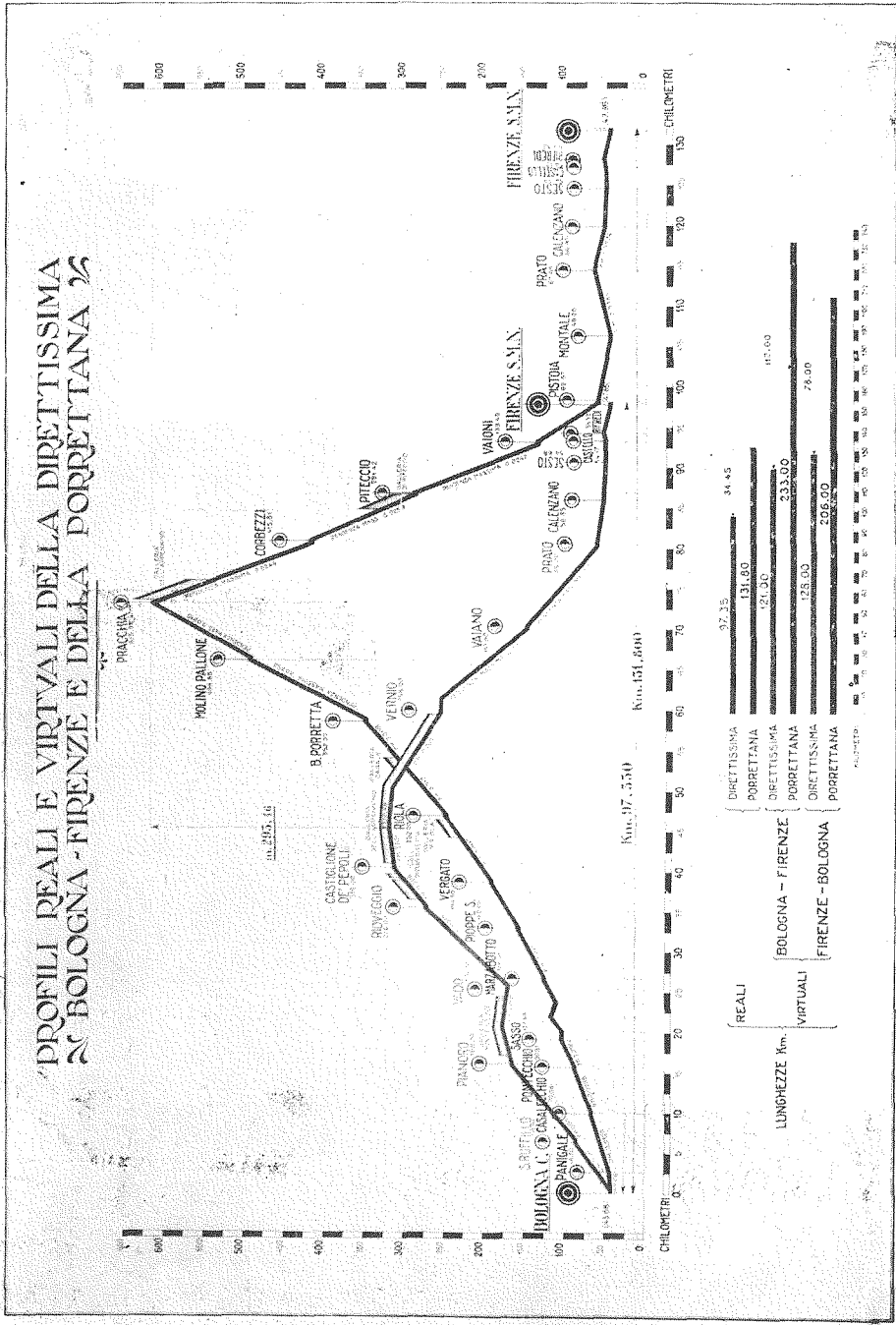
尙此處では米國の如く木材を豊富に得られないので、支保材の如きも丸太のみを經濟的に使用されてゐて、設備や工法等、我國の夫れと相似た處が少なくない。(鐵道省建設局技師三好新八氏歸朝談)



(2) アペニン山隧道シャフト内の排水用ポンプ設備の景である。580呎の地下に此丈けの大設備がある、如何に湧水に備へたかを知る、將來は此場所を信號所にする。



(3) 同上、シャフト内に於ける換氣用の送氣管（大管）と壓穿空氣用の鐵管とを示すものである。



(5) アペモン山大隧道開鑿の爲めの新線と舊鐵道線路の高低其他を比較したものである。